

# 令和3年度事業実績報告

令和 4年 4月 1日  
わきはまこども園

## 1、こども園の運営

所在地 貝塚市脇浜3丁目31-8

定員 90名(2号・3号) 10名(1号)

3月在園児数 103名

(内訳) 0歳児 5名 1歳児 18名 2歳児 17名  
3歳児 24名 4歳児 18名 5歳児 21名

職員数 園長 1名 副園長 1名 事務長 1名

主幹保育教諭 2名 保育教諭 18名

管理栄養士 1名 調理員 4名(㈱淀川食品所属)

事務員 1名

## 2、保育目標

- ・ 体も心も元気な子の育成
- ・ 思いやりのある子の育成

### (1) [開園時間]

午前7時～午後7時(保護者の状況により伸縮させる。)

[基本保育時間](2号・3号)

午前9時～午後5時

午後6時～7時(延長料金徴収)(標準時間認定者)

午後5時～7時(延長料金徴収)(短時間認定者)

[基本教育時間](1号)

午前9時～午後1時

午後1時～午後3時半(希望者は保育時間)

午後3時半～午後5時(延長保育料金徴収)

## (2) 保育・教育の内容

- ・園児の個性や成長に応じることを意識した上で、理念、方針を基本とした保育・教育を心掛けた。
- ・体育や英語、習字、珠算の成果は、冬季の発表会のスライドにて発表し、掲示やホームページでアピールした。
- ・年度内に2回（10月と11月）に保育参観週間を設定した。感染症の流行により、延期も余儀なくされたが、ひよこ組（0歳児と1歳児）以外は何とか実施出来た。感染症対策を徹底し、密を避けるスケジュールリングに時間を要した。
- ・令和2年度に引き続き、年長児に対して美術展に応募する機会を多く設ける予定だったが、コロナの影響で殆どの展覧会が中止となった。夏に一回、応募の機会を得た為、園児達は張り切り、切磋琢磨し、自己表現を楽しみ、精神面での大きな成長のきっかけとなった。
- ・プール遊びについては、水遊びや泥遊びにシフトする対応をとった。理由としては①プール遊びによる乳幼児の事故が多く報告され、園にも水遊び等の際の注意指示が頻繁になった為。②プール遊びを実施することがコロナの感染リスクを高める可能性がゼロではないと判断した為。しかしながら、増築棟下がピロティになっており、夏場は日陰となって風も通る為、夏の遊びには最適な場所となった。ピロティ下では夕涼み会の代替として、数日に分けて父母の会主催で『おまつり遊び』を行った。
- ・おおぞらこども園との子ども同士の交流は田舎体験（田んぼでの自然遊び）、雪遊び共に中止となった。雪遊びに関しては年長児のお別れ遠足の意味もあった為、コロナ感染者が減少傾向となった時期をみて、当園年長児がバスで二色の浜公園に遠足に行った。
- ・給食に関しては、海外での戦乱の影響により食材料費も高騰している。品質は保持しつつ、節約の共通認識を持ち、安全な給食、おやつ作りに努めた。管理栄養士や食育担当保育教諭による食育活動を盛んにした。コロナ対策と

しての手洗いやうがいの徹底、マスクの着用等により、令和3年度はインフルエンザ感染者が出なかったが、全世界的なコロナウイルス感染拡大が長期（2年以上）続いている為、夏や冬の食育に関する行事、バイキング給食等は軒並み中止とした。しかし前年度と違い可能な範囲での食育活動は再開した。梅収穫や梅ジュース作り、五感を刺激する食育の取り組み等、衛生管理を徹底した上で行った。

- ・綿づくりや園芸活動等、自然との触れ合いを充実させる活動を重視した。
- ・二色ノ浜海岸のクリーンアップ活動や芋掘りによる地域の方々との交流も中止となった。
- ・夏には貝塚いぶき作業所さんのご厚意により年長児が陶芸の絵付けを体験し、園内で作品を展示した。
- ・8月に3歳以上の園児が参加予定であった、脇浜町会主催の夏祭りは中止となった。
- ・1月には十日戎の日に福参りをさせて頂き、地元根付く日本の伝統行事に触れる予定であったが園児の参加は中止となった。
- ・2年前まで毎年行われていた、西校区福祉委員会主催の独居の高齢の方々とのいきいきランチの会は令和3年度も中止となった。
- ・園児の保育必要時間が昨年度と同様、遡っての変更が変わらず頻繁で、作業や操作に工夫や人手が必要だった。
- ・コロナの影響により中学生の職業体験や高校生の職業体験は受け入れ側、送る側共実施しが難しく、中止となった。
- ・短期大学の実習生を6月に2名、9月に1名、1月に大学の実習生を1名、受け入れた。
- ・新卒採用は行わなかった。
- ・引き続き処遇改善加算を受ける中で、可能な範囲でキャリアアップ研修を受講した。しかしながらコロナの蔓延が続く中、対面での研修参加は難しい状況であり、環境を整えた、オンライン研修が随分定着した。乳児保育研修1

名、保護者支援研修1名、受講し、認定を受けた。コロナにより多くの研修に影響があったが、新たな研修のあり方を考えるきっかけとなった。

- ・保育士の処遇改善加算ⅠとⅡ、更に2月より特例事業費補助金も実施された。
- ・保育士の処遇改善加算Ⅰは例年通り3月に手当として支給した。
- ・園の方針に則り、各クラス内での保育のみにとどまらず、各自、任された担当業務を遂行し、みんなで力を合わせた業務を実践する事が出来た。
- ・令和3年度はコロナ（オミクロン株）の流行が前年度以上に園は影響を受け、1月半ば頃から園児や職員の感染、濃厚接触者に指定される事による長期欠席や現場人員の不足、保育料等の返還作業の複雑化に悩まされた。またその頃には保健所が逼迫し、濃厚接触者に該当するかどうかの判断等が園に委ねられ、日々の判断が大きなストレスとなつてのしかかった。園児とのスキップを控えなくてはいけないジレンマや、年齢ごとのマスク対応（熱中症対策とのバランス等）をどうするか等まだまだ課題は多い。

### （3）保育・教育担当

- ・ 担当保育教諭を定め、園長は総括指揮をとった。
- ・ 事務長は運営事務に関する総指揮をとった。
- ・ 職場研修は三密を避けながら推進した。
- ・ 管理栄養士、調理員の配置で、子どもの安全、健康づくりを図った。

### 3、 保育・教育設備

園舎 . . . 前年度と同様、美化に努めた。

◎増改修工事後の工務店による1年点検が12月頃に行われる予定であったが、コロナの影響により延期となった。

◎1月下旬コロナにより休園した際、業者による保育室の消毒を行った。

◎遊具や砂場の保守点検業務について(株)ビティへ実施報告書の内容追加や変更、保護者へのアピール方法の提示等を依頼中である。

◎雨が降れば土砂降りとなる傾向があり、ピロティ下のグラウンドの排水がスムーズにいかない期間が続いた為、排水口、砂盛り等の調整工事を行った。工事後は雨の翌日も水溜まりができることなく、有効に運動場として活用している。また内水による浸水被害のリスクも回避した。

◎新型コロナウイルス感染症対策として密を避け、二方向換気やCO2センサーの設置、合同保育をなるべく避ける等、少人数保育を心掛けた。

#### 備品（購入した物）

- はと組とつばめ組のレースカーテン
- 調理室内の劣化、破損した分の食器類
- ひばり組とつばめ組の園児用ロッカー各1台
- 玄関とひよこ組の水式空気清浄機各1台
- 乳児午睡時呼吸センサー4台
- ひよこ組布団収納棚

### 4、 資金の計画

施設型給付費収入と補助金収入をもって収支均衡を図った。

### 5、 その他

引き続きインターネット関連の業務、安全防犯対策として機械警備、給食会社への委託を行う。

以上

わきはまこども園  
園長 山田尚子